

機関番号：72622

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320114

研究課題名（和文） 宋代社会経済史語彙解釈のデータベース化

研究課題名（英文） The Editing of Electronic Glossary for Terms of Socio-Economy in Song Dynasty China

研究代表者

斯波 義信 (SHIBA YOSHINOBU)

財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：00039950

研究成果の概要（和文）：本研究は、『宋史食貨志訳注』全6巻及び既刊の歴代食貨志訳注その他の中国社会経済史文献より、宋代を中心に元・明・清・民国に亘る財政、経済、社会及び公文書に頻出する用語を選択分類し、更に簡明な解説を施し、これを冊子体及びインターネット可読の情報データとして利用者に提供するものである。

研究成果の概要（英文）：This project is to edit a dictionary of the glossaries of the terms of socio-economy and public finance for the past millennial years of China. This will facilitate various sorts of users who are concerned with the understanding of Chinese economy and society in the past. We will publish the product of our labor in the forms of a book and an electronic database within this year. In this work the selection of the terms along with their annotations to be entered in this dictionary was made through referring to two groups of sources. A series of *The Translation with Annotations of Treatise on the Economy and Finance contained in the Dynastic Histories of China* (most of them are the Toyo Bunko publications) were used as the basic sources of reference. Efforts were also made in looking widely into other sources to fill the gap of data with which the first group sources often fail to provide. They are the monographic writings, the cyclopedic works and the dictionaries on the issues of Chinese socio-economy, and the results of modern investigations into the Chinese civil affairs. This dictionary contains around 10,000 items of technical terms which are further classified into four categories: the public finance, the economics, the society and the public documents.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2008年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
総計	15,500,000	4,650,000	20,150,000

研究分野：宋代史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：宋代史、社会経済、用語解釈、電子データ

1. 研究開始当初の背景

(1) 東洋文庫の出版物について

中国経済史の開拓者と言われる加藤繁は、中

国経済史の基本資料である13種の歴代正史食貨志（経済・財政記録）の詳しい訳注の作成を企画し、1942年に史記・漢書、1948年

に旧唐書・旧五代史の食貨志訳注を出版し、東洋文庫の和田清は、加藤の遺志を継いで1957年、明史食貨志の訳注を編纂した。これ以降、東洋文庫は食貨志訳注事業に尽力し、もっとも大部の『宋史』食貨志篇については、1960年の第1巻を刊行し、その後しばらく下記の『宋会要輯稿』の語彙検索に追われたが、2000年の第2巻・第3巻、2002年の第4巻、2005年の第5巻の刊行を経て、2006年、全6巻の完成を見、『晋書食貨志訳註』も同年刊行され、残るは『隋書』・『新唐書』・『新五代史』・『元史』等のみとなった。その間、1964年・1965年の科研費「題目・宋代以降の農村社会経済語彙の研究」、1991年～1993年の科研費「題目・宋史食貨志の総合的研究」及び2002年～2004年の科研費「題目・宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」の助成に預かることが出来たのは大きい。

東洋文庫は同じ助成により、更に『宋会要輯稿』(実録、日暦、档案、各朝会要、国史などの諸資料によって編纂された、宋代史研究万般の根本資料) 全篇の目録を1970年、『宋会要研究備要一目録一』(青山定雄編)として刊行した後、食貨篇についての語彙検索とその整理も行ない、総数10万枚余に及ぶカードを順次分類編集し、その成果は、『宋会要輯稿 食貨索引:人名・書名篇』(1982年)、同『年月日・詔勅篇』(1985年)、同『職官篇』(2005年)、同『地名篇』(2005年)の刊行として結実し、未処理のカードは一般用語(経済・社会・法制・文書・難読語彙等)約7万枚のみとなった。

以上のように、宋史食貨志訳註事業推進の過程で、『宋会要輯稿』食貨篇の調査に移行したのは、社会経済史用語の検索と解釈の不備が痛感されたためであって、東洋文庫がつとに1966年、『中国社会経済史語彙』(星斌夫編、東洋文庫近代中国研究センター刊)を刊行したのはその理由からであった。この書は内外の研究者に多大の便宜を与え、同『続編』(星斌夫編 1975年光文堂刊行)、同『三編』(星・鈴木・中道編 1988年光文堂刊行)も刊行された。この3編は、日本における中国社会経済史研究文献より、1万余に及ぶ語彙を選んで解説を施したものであり、中国社会経済史辞典としての役割を果たしてきた。しかしながら現在に至るまで、この種の刊行は他に見ることができない。われわれが、『宋史食貨志訳註』完結の機会を捉え、「中国社会経済史用語解釈のデータベース化」を企画した理由の一端はそこにある。

(2) 東洋文庫以外の出版物について
さて、東洋文庫の創立は1924年であるが、それ以前からさまざまな機関によって中国社会経済史語彙に関連する図書の刊行はなされていて、その主なものを挙げれば、臨時

旧慣調査会編『清国行政法』(1905年～1914年)、同『台湾私法』(1910年～1911年)、岡野一朗『支那経済辞典』(1931年)、東川徳治『典海』(1930年、その増補版『中国法制大辞典』は1933年)、石山福治『最新支那語大辞典』(1935年)、満洲帝国協会地籍整理局分会編『土地用語辞典 中国・朝鮮・日本』(1939年)等があり、中国農村調査刊行会編『中国農村慣行調査』(1954年～1958年)、中華民国司法行政部編『民商事習慣調査報告録』(邦訳『支那満洲民事慣習調査報告』上・中 1944年)等の実態調査文献にも関係語彙は豊富に収められている。更に『アジア歴史事典』(1959年～1962年平凡社)、『歴史学事典』(1994年～2006年弘文堂)も社会経済史に関する主な項目に詳しい説明がなされ、語彙解説としても有用である。

中国における刊行物についてみていくと、総括的なものとして『中国百科全書 中国歴史』(1992年)、『中国歴史大辞典』(先秦史巻・秦漢史巻・魏晉南北朝史巻・隋唐五代史巻・宋史巻・遼夏金元史巻・明史巻・清史巻等、1984年～1994年)、『漢語大詞典』(1986年～1994年、漢語大詞典出版社)、各種『語言詞典』(宋元 1985年上海辞書出版社、唐・五代、宋、元 1997年～1998年上海教育出版社)等があるが、社会経済史関係語彙の採録は多くない。社会史研究に関する一連の『社会生活史』(夏商・西周・春秋戦国・秦漢・魏晉南北朝・隋唐五代・宋遼西夏金・元代・明代・清代 1994年～2004年)の語彙解説は詳細であるが、生活史に重点がある。

以上、東洋文庫その他の刊行物を挙げてきたが、今回われわれが直接に継承するものは『中国社会経済史語彙』である。述べてきたように、半世紀近く経過しながらこの種の刊行物を見ないのは遺憾である。

2. 研究の目的

(1) 私的文書の散漫と保存の不備
次に、われわれの狙いと併せて星斌夫編『中国社会経済史語彙』を継承発展させる理由について述べていきたい。

古来、中国は記録に富んではいるが、組織的に保存されるものはおおむね公文書に限られる恨みがある。私的な文書は価値なきものと見做され残されないのである。記録を残すものは士大夫といわれる官僚層であるが、その公けの立場による活動のみが意義あるものと見る牢固とした通念が、上下の社会に存在し、その通念によって士大夫の立場は支えられているからである。その社会の背後にある経済的行為については、士大夫自らは関与しないことを建前とした誇りとする。そのため経済的活動そのものも卑しいものとみなし、それが私的な文書の不備欠落をもたらすのである。指導者に限らず各階層が抱くこ

のような心的態度は、ある意味では今日とて変わりはなく、中国経済の実態と表象の乖離はこうして生まれ、その把握を難しくする。あるものは官僚の描く公的記録を実態とみなし、もろもろの記録をそのまま受け取り疑いをさしはさまないが、あるものは公的記録に疑いを抱き一顧だにせず、結果として公の財政とその背景にひそむ社会経済活動の世界との関わりをドロップさせることになる。われわれが日ごろ親しんでいる歴代食貨志、更に『宋会要輯稿』とて、国家経済を念頭に置いた公的記録であり、財政を第一義とする公的文書の典型と言っても過言ではない。個々の私的な記録は断片的に記されるのみである。『元典章』、明・清の実録類とて同類である。

(2) 財政を支える民間経済

しかしながら記録者である士大夫も、立ち入って見れば時代によってまた地域によって一様ではない。宋代以降、膨大な量に上る筆記小説類あるいは官箴類の存在は、それ自体すでに記録者である士大夫の変質と多様性を示すものである。宋代の士大夫は所謂新興階層であり、民間経済とは切り離せない存在であり、公的営為は実は私的な営為によって支えられているのである。支え方は表に出す場合もあれば背後に隠す場合もあり、直接的であったり間接的であったり、さまざまであるが、私的な営為を想定しない事には公的な営為は理解できないということである。

例えば宋代市易法（国営商業）で採用された「賒（信用取引）」は、当然の事ながら、民間に広く用いられていたものである。その国営企業の「賒売（信用貸し）」が民間経済を圧迫したのか否かが問題とされるが、「賒売」そのものの慣行を認めることに誰しも異存はないのである。民間経済への適応のみでなく、そもそも国家財政は商業の発展によって支えられているのである。専売収益は商人への委託による部分が大きく、商税収入も商業の盛行を前提としなければ理解できない。したがって財政用語は社会経済的事象を示唆する事例が多く見られるのである。このことはいいかえれば、公文書の中心的課題である財政の語彙は、それ自体用例を精査しなければならないのみならず、社会経済語彙によっても裏打ちされなければならないということである。

(3) 社会経済史辞典の不備

要するに財政、社会・経済の語彙は相互関連の中に一体として捉えられなければならない。しかしながら、これは言うは易くて実行しにくい。われわれの中国社会経済史研究において研究者が直面する困難に、根本資料のおもな源泉である食貨志等の典籍から必要な情報を引き出すために、長期の訓練と読解の作業を必須とするということがあるが、そ

れは以上のように財政・社会経済の用語が、古来、時代・地域ごとに多義多様であるのかかわらず、辞書には必ずしも掲載されてはおらず、結局は自らの修練の積み重ねによってその意味を理解するよりほかに方法が無いからである。用語解の専門辞典が極端に少ない今日の状況を考慮すれば、基本的な財政資料の訳註、あるいは社会経済史の専門書において施された語彙の解釈に広くあたり、辞書に代替するものを提供する意義は大きいと言わなければならない。

更に辞書には、『アジア歴史事典』、『歴史学事典』の如く長文の解説もあれば、『中国歴史大辞典』その他各種辞典に見られる如く短文のものもある。概して食貨志注釈による財政政策用語の解説は長文となり、多様な社会経済用語は短文でよい。両者が相互関連する以上、長文の所謂事典的なものと短文の辞典的なものは併用するのが望ましい。それに近いのが『中国社会経済史語彙』なのである。本企画が継承すべきと考える理由である。しかしながら、刊行後、長年月を経た今日、そのままでは需要に応えられるものではない。

3. 研究の方法

(1) 合意形成

われわれの企画は二つの作業から実施に移された。『宋会要輯稿』食貨篇一般用語索引及び『宋史食貨志訳注索引』の刊行である。前者は述べてきたように、既刊4篇以外に残された未整理約7万枚のカード整理を要する作業である。社会経済史資料の基本文献である『宋会要輯稿』食貨篇、しかもその中の一般用語は、社会経済史用語の中核であり、われわれの用語解説のためにカード整理が必須であった。その成果が『宋会要輯稿 食貨篇 社会経済用語集成』の刊行である。後者は既刊の『宋史食貨志訳注(1)～(4)索引』の追加である。各訳注担当者の作成した案文に基づき『宋史食貨志訳注(5)・(6)索引』の刊行し、ついで合冊『宋史食貨志訳注(1)～(6)索引』刊行に及んだ。『宋会要輯稿』食貨篇一般用語索引と総合的な食貨志索引刊行に際し、研究代表者の下、研究分担者・連繫研究者・研究協力者は、大小数十回の会合を開催し、両書に掲載すべき語彙全体について一語一語採否を検討して合意形成に努めた。

(2) 用語採録の基準と作業手順

上記会合の際、併せて「中国社会経済史用語解釈のデータベース化」のためのさまざまな基準についても話し合い、①用語採録の基準、②用語解説の範囲、③用語の部門別分類（コード・サブコード化）、④作業手順（資料の電子化とカード化）等の課題について検討し、然る後、用語解説執筆に入るべきことを決めた。その内容は次の如きものである。

- ①用語採録の基準については、宋代を中心として、元・明・清・民国に及ぶこととし、法制史用語は除外する。参照文献は、歴代食貨志訳注、『宋会要輯稿』食貨篇を中心としながら、『中国社会経済史語彙』3冊の典拠となった研究書、それ以後の専門書、特に上記経済関係の『支那経済辞典』、『典海』、『最新支那語大辞典』、『土地用語辞典 中国・朝鮮・日本』等及び諸種慣行調査書とする。
- ②用語解説の範囲については、食貨志訳注に準じて、財政関係は賦税・役法・塩法等の大項目を設けるが、中小の項目も多用し、辞典的性格を持たせることとし、類語を挙げ、時代・地域を特定することとする。
- ③用語の分類については、『清国行政法』・『台湾私法』を参照して、財政、経済、社会、公文書の4部に分け、更に細目を設けてサブコード化する。なお、経済の部を重視するために、財政用語中の経済用語は出来るだけ経済に移行させる。上に述べてきたように財政用語と社会経済用語を一体として捉えんとするためである。公文書用語は、財政用語と不可分の関係にあるので採録することとし、佐竹・赤城『宋元官箴総合索引』、石川重雄『宋元釈語語彙索引』等により語彙を抽出し、『六部成語註解』、『史学指南』をも参照することとする。
- ④作業手順については、一覧表「中国社会経済史用語解説編纂大日程」を作製し、『宋史食貨志訳注』(1)～(6)、『宋会要輯稿』食貨篇、『中国社会経済史語彙』正・続・3編及び参照文献の電子化とカード化、カードの4部への仕分け、仕分けカードの細分化と用語採録、解説の執筆と入力等の日程を決めた。

4. 研究成果

上記方法と手順に従って得られた成果を以下のように5項に分けて述べていきたい。

(1)『宋会要輯稿 食貨篇 社会経済用語集成』刊行(2007年度)

これについては、Ⅰの(1)及びⅢの(1)に記したように、一連の『宋会要輯稿 食貨索引』刊行の完結を期したのであるが、多人数によって採択された約7万に及ぶ一般語彙カード(語彙自体と所在箇所の記載)は再点検を要し、その作業に手間取ったが、その中から1万余の社会経済用語を採録する作業は、われわれ相互の合意形成に役立ち、その後の事業遂行のための基礎造りとなったのである。更にその刊行は、一般の『宋会要輯稿』食貨篇の利用にも多大の便宜を与えることになる。

(2)『宋史食貨志訳注(1)～(6)索引』(2008年度)

これについても、Ⅲの(1)に記したように、

既刊の『宋史食貨志訳注(1)～(4)索引』を承けて完結させたものであり、全6巻用語の点検・採録作業は、やはりわれわれの合意形成に大いに役立った。

(3)A4版カード約40000枚の作製(2009年度)

カード作成に先立ち、『宋史食貨志』、『中国社会経済史語彙』3冊等の電子化の可能なものはそれを利用し、その他の研究文献及び辞書類は複写と貼付という方法を取り、参照すべき用語のカード作製は、A4版約40000枚に及んだ。これを次項の分類細目によって分類・ファイル化し、解説執筆の材料としたのである。

(4)用語分類細目(2010年度)

財政・経済・社会・公文書の4部の細目の配分に苦慮したが、以下の項目に分けることとした。

①財政の部は、

- 10 財政総論
- 11 財務行政(行政一般・官庁・胥吏・地方財務)
- 12 賦税(賦税一般・台帳・五賦・催税と受納・漕運均輸和糴)
- 13 役法(役法一般・州役・県役・郷役・力役)
- 14 専売(専売一般・茶・塩)
- 15 国営商業(商税・市易・市舶互市)
- 16 会計(会計一般・収入・支出・倉庫)

等の7ジャンル。農田・貨幣等、経済の部に入れる。

②経済の部は、

- 20 経済一般(一般・物業・度量衡数詞・契約)
- 21 不動産(地目地種・発生消滅・出租承租・租棧・家屋墓地・古田制)
- 22 動産(一般)
- 23 債権債務(一般・質抵当・典・貸借・包・雇用)
- 24 商事(一般・取引交換・商品・価格・相場・商人(行)・商店・倉庫・資本利率・合資・会計帳簿)
- 25 貨幣(一般・雑貨幣・錢貨(古代～清末)・錢貨通則・金銀・紙幣(～宋末)紙幣(元～清末)・信用制度・銀行・庶民金融)
- 26 交通(一般・運送業・水運・陸運・運河・駅伝・海運)
- 27 産業(一般・農業・漁業・林業・牧畜業・織物業・鉱業・陶磁器業・製紙業・醸造業・その他)

等8ジャンル。

③社会の部は、

- 30 一般(一般)
- 31 人事(一般・生老病死・衣食住・娯楽・戸籍・人口移住・職業分化・階層分化)
- 32 集落(一般・都市・鎮市・地理境域)
- 33 親族家族(親族家庭一般・祖先祭祀・親

族組織親族呼称・婚姻養子・家産相続・
氏族宗族・女性)

34 教育 (一般)

35 福祉 (一般・賑恤・常平義倉)

36 仲間組合 (一般・社・行・保)

37 宗教俗信 (国家祭祀・仏教・道教・民間
信仰・その他)

38 風俗習慣 (一般・年中行事・社会習俗・
風俗)

39 時刻 (一般)

の 10 ジャンル。

④公文書の部は

40 一般 (一般)

41 司法 (一般)

42 公文書 (一般・慣用語・上行文・平行文・
下行文・詔勅宣示・揭示告知通知・軍事
駅伝・簿冊帳・批・証明書証文・印押書
簡・辞令経歴・書式形態等)

の 3 ジャンル。

(5) 4 部用語数、各約 3000 の解説案文の作
成 (2010 年度)

4 部の責任者は「財政」梅原、「経済」と「社
会」は斯波、「官文書」は長谷川・渡辺とし、
類語を含めて数えれば 1 万を越える用語解説
を作製した。今回、ベータ版にはその半数程
度、項目数では 1000~1500 掲載することに
した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計 28 件)

- ① 梅原郁「中世渡来銭の謎」『古文化研究』
10 号、2011 年 3 月、1-76 頁 (査読無)
- ② 大澤正昭「『居家必用事類全集』所引唐・
王旻撰『山居録』について」『上智史学』
55 号、2010 年、111-140 頁 (査読無)
- ③ 大澤正昭「農業社会史」『魏晋南北朝隋
唐時代史的基本問題』(中華書局)、2010
年、236-255 頁 (査読有)
- ④ 青木敦「南北支那論と唐宋変革論におけ
る宋朝の定位」『건지인문학』제 4 집、
2010 年 12 月、pp. 337-377 (査読有)
- ⑤ 青木敦「中国経済史研究に見る土地稀少
化論の伝統」大島真理夫編『土地稀少化
と勤勉革命の比較史』(ミネルヴァ書房)、
2009 年 12 月、165-210 頁 (査読無)
- ⑥ 斯波義信「中国社会経済史用語解の作
成」『東方』145 号、2009 年 11 月、2-4
頁 (査読無)
- ⑦ 梅原郁「日本と中国の出土銭——北宋銭
を中心として」『東方学』118 号、2009
年 7 月、40-60 頁 (査読有)
- ⑧ 大澤正昭「唐宋時代の家族について」『史
海』56 号、2009 年 5 月、25-37 頁 (査読
無)

〔学会発表〕(計 8 件)

- ① 青木敦「南北支那論と唐宋変革論におけ
る宋朝の定位」(日本語)、国際会議
「건지인문학」(全羅북도全州市・全北
大学校)、2010 年 12 月
- ② 青木敦「ジョーンズ『経済成長の世界史』
と宋代中国経済の諸側面」早稲田大学現
代政治経済研究所講演会、2010 年 1 月
- ③ 青木敦「抵当慣行および関連法規から見
た宋と清の比較」慶應義塾大学東アジア
研究所第 25 回学術大会 (三田キャンパ
ス)、2010 年 6 月 26 日
- ④ Yoshinobu Shiba “On the emergence and
intensification of the pattern of
rural urban continuum in the late
imperial Jiangnan society ” in
International Symposium on the Market
Economy of the Lower Yangzi delta in
Late Imperial China : Space,
Institution and Networks. October 5-6,
2009, Academia Sinica, Taipei
- ⑤ 大澤正昭「『袁氏世範』の世界——危機
の中の日常」上智大学史学会、2008 年 5
月

〔図書〕(計 6 件)

- ① 大澤正昭『「名公書判清明集」(官吏門)
訳注稿』(下)、2010 年、94 頁、汲古書
院
- ② 斯波義信共編著『中国近世文芸論：農村
祭祀から都市芸能へ』、2009 年、320 頁、
財団法人東洋文庫
- ③ 相田洋著『橋と異人一境界の中国中世史
一』、2009 年、395 頁、研文出版
- ④ 斯波義信編『宋史食貨志訳注 (1) ~ (6)
語彙索引』、2009 年 3 月、282 頁、財団
法人東洋文庫
- ⑤ 斯波義信・渡辺紘良・長谷川誠夫・廣瀬
紳一『宋会要輯稿 食貨篇 社会経済用
語集成』、2008 年 3 月、470 頁、財団法
人東洋文庫

〔その他〕

ホームページ等

<http://61.197.194.9/yogokaiopen/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

斯波 義信 (SHIBA YOSHINOBU)

財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：00039950

(2) 研究分担者

梅原 郁 (UMEHARA KAORU)

財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：00027541

渡辺 紘良 (WATANABE HIROYOSHI)
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：90049180

長谷川 誠夫 (HASEGAWA YOSHIO)
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：90353482

大澤 正昭 (OOSAWA MASA AKI)
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：30113187

廣瀬 紳一 (HIROSE SHINICHI)
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：00414079

青木 敦 (AOKI ATUSHI)
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：90272492
(H19→H20:連携研究者)

相田 洋 (SODA HIROSHI)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号：20036932
(H19→H20:連携研究者)

(3)連携研究者